

第8回安曇野市新市立博物館構想策定委員会 会議録

1	会議名	第8回安曇野市新市立博物館構想策定委員会
2	日 時	平成27年7月23日(木) 午後1時30分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 共用会議室 301
4	出席者	笹本委員長、石田副委員長、福島委員、小林委員、平田委員、浅見委員、滝沢委員、浅川委員、小椋委員、酒井委員、大月委員、西垣委員
5	市側出席者	教育長、北條教育部長、那須野文化課長、西山博物館係長、小倉博物館係員、逸見博物館係主査、亀山(乃村工藝社)、横山(乃村工藝社)
6	傍聴人	2人 記者 2人
7	公開・非公開の別	公開 協議事項(4)以降、非公開
8	会議概要作成年月日	平成27年7月30日

会 議 事 項 等

1 会議の概要

1. 開会 (北條部長)
2. 笹本委員長あいさつ
3. 協議事項
  - (1) アンケート調査結果について
  - (2) 提言(素案)について
  - (3) 新市立館構想書【案】について
  - (4) 新市立博物館建設候補地及び建築費用について
4. その他
5. 閉会

2 会議概要

1. 開会

北條部長・どうもお疲れさまでございます。定刻より若干早いが、皆さんおそろいなので、ただ今から第8回の安曇野市新市立博物館構想策定委員会を開催する。梅雨が明けてすごい暑くなると思ったら、きょうはまた逆戻りみたいな天気でちょっと蒸し暑い感じであるけども、きょうは大変お忙しいところ皆さんお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

新市立博物館構想の素案の検討をずっとしてきていただいたわけであるが、最後の詰めの段階に入っている。今回、市民アンケートの集計結果も出ている。これらの意見も参考にさせていただきながら、今日はいろんなご意見を賜りたいと思うので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、委員の皆さん全員出席なので、設置要綱の第6条第2項の規定により、半数以上出席で会議は成立していることを報告させていただきたいと思う。

では、笹本委員長からごあいさつをお願いいたします。

2. 委員長あいさつ

委員長・皆さん、どうもお忙しい中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本当に今日は山になるが、いつもこの会議は来れば来るほど楽しくなり、いろんなことをみんなで言い合いながら、新しい安曇野の文化をどうやってつくっていくかというのが最終的な目標で、博物館はその一環にすぎないということをいつも感じさせていただいている。今ちょうどアルプスが雲にかかっているけども、安曇野へ来るといつも美しい景色と、それから素晴らしい木々の緑、こういったものをどういうかたちで私たちが踏み込んで新たな文化

をつくっていくかという課題をいつも突きつけられている気がする。

今日もいろいろ厳しいご意見を頂きながら、少しでもいい結果を残していきたいと思う。ぜひご協力のほどよろしくお願ひいたします。

北條部長・・・どうもありがとうございました。

それでは早速、議事のほうに入らせていただきたいと思う。司会進行のほうを委員長、よろしくお願ひいたします。

### 3. 協議事項

委員長・・・それでは協議事項に入る前に、いつものようにこの会議は前半は公開で行われるが、後半の新市立博物館建設候補地〔及び〕建設費用にかかる部分については非公開にさせていただきたいと思う。非公開の決定については、「安曇野市附属機関等の会議の公開に関する基準」3の(1)により、「附属機関の長が当該会議に諮って決定しなければならない」と規定されているので、各委員にお諮りしたいと思う。また、非公開にする理由については、「安曇野市附属機関等の設置及び運営に関する指針」6の(3)による。本委員会においては、新市立博物館の候補地〔及び〕建設費用を検討する部分については、まず候補地はあくまでも現時点で想定される仮の候補地であること、それから建築費用についても現時点での概算の費用であるため、両方ともそれが独り歩きすることは本委員会の趣旨とは異なる。であるから後半部分を非公開にすることにしたいと思うが、ご賛同いただけるでしょうか。

全委員・・・(了承)

委員長・・・ありがとうございました。今、皆さまのご意思を確認し、新市立博物館の建設候補地を検討する部分を非公開とすることに決定する。

また、いつものとおりだが、会議情報を作成するために発言の際には名前を名乗っていただきたい。よろしくお願ひいたします。それと本日の会議は午後3時半をおおむね終わる時間にしたいと思っているので、これもまたいつものようにご協力をお願ひいたします。

#### (1) アンケート調査結果について

委員長・・・それでは早速、協議事項に入っていききたいと思う。まず、最初にアンケートの調査結果について、既に皆さまのお手元に行っていると思うが事務局のほうから説明をお願ひいたします。

(西山係長より 資料1「安曇野市新しい博物館のあり方に関する意識調査集計結果報告」の説明)

委員長・・・どうもありがとうございました。以上で説明は終わりました。委員の皆さまのほうから、ご質問、ご意見等がございましたらお願ひいたします。

委員・・・今説明の中にはなかったが、52ページ。この中で、新市立博物館の設置を目指しているという内容のアンケートであるが、1番、2番、3番とあるけども、3番の「知らなかった」というパーセンテージが非常に高い。こういう中において、いろいろ意見を頂くにしても、事前に周知しておいて、ある程度皆さんに出回ったところでアンケートをとるべきではないかと。結局アンケートの内容も、偏ったアンケートの内容になっている気配があると思う。美術館へ行っている人は、ある程度前向きなご意見が出ている。興味のない方は分かる。多数の皆さんであるからいいのだけれど、そういう中においてのアンケートの内容に、いまいち充実した点が不足しているのではないかということが感じ取れた。なので、皆さんに周知の方法をもう少し工夫していただければと思った。

委員長・・・今のはご意見ということでよいか。

委員・・・はい。

委員長・私も実は52ページを見た時に、あまりに低いのでびっくりした。逆に言うと、これだけ低くて、つまり私たちの活動が知られていないことと同時に、それでも出てきている意見は、博物館をつくるべきだとか改修すべきだという意見があるということのほうに私は驚いた。私たち全体も、どちらかというところの意見と、最初に私たちも足踏みしている中で、論議をすればするほどやっぱり必要だよなという流れになってきた。そういうことを前提にするならば、これだけ関心のない中で、これだけ結果が出ていることにまたちょっと驚いた。これから機運が高まってくれば、もっといい結果が出てくるのは逆に目に見えてくるのではないかと思ひ、委員の言われたことも非常によく分かると同時に、でも市民の皆さんは、これでありながらこんな意見を言ってくれているんだなと、私はものすごく安心した。これは私の意見であるけど、皆さんのほうから。

委員・私もこれを見た時に、最初のほうは、皆さん今ある博物館じゃなくて、もっと行きやすいとか楽しめるとか子どもたちとか、そういう意見がたくさんあって、博物館を利用している人でない一般市民も、利用している人はさらにというのが見えているし、そうでない人たちもこれから先そんなのがあるといいなという希望がすごく見えて、博物館構想のこういことをしているということが分かっていたら、もしかしたらもっと反対と言うのはおかしいけど、何でお金を使って、という回答が後ろのほうにあった。だから最初のほうを見ていた時は、すごい、ああ、と思って、後のほうへ行ったら、そんなハコモノばかり造ることはないんだとかいう厳しい意見があった。もしかしたら博物館とか美術館を利用していない一般の人たちに、安曇野市にはいろんな素晴らしいものがあるし、伝えていかなきゃいけないものがあるということ、これから一般市民の人たちに知らせていくことが大事。そしてそんな要らないじゃないかという人たちには、今ある博物館は手狭とか古いとか、そういうこともきちっと説明する。それでリニューアルとか増改築みたいなのをしていくよりは、逆にお金は広くていいほうと同じぐらいなんだというか、そういうことを細かくこれから説明していけば、いろいろな前向きな言葉も出てくるんじゃないかなというのを感じられた。

委員長・どうもありがとうございました。その意味でも今、委員が言われたように、私たち一人一人委員としての役割もすごく大事になっていく、ということを変えて言っていたように思う。皆さん、ほかにご意見があれば。

委員・私は、アンケートの数字について一つ懸念がある。構想の案の中で数字が使われていることの懸念である。この二つのアンケートは母集団が全然違う。パーセントが出てくるのは構わないが、それで比較する場合に、そこのところは極力注意して数字を扱わないと誤解を招く。そういうところを念頭に置いてほしいと思う。あと提言書のところで具体的な数字が出てくるから、また意見を言いたいと思う。

委員長・ありがとうございます。博物館に来ている人、それから全体の中ではよそから見ると博物館に来てもらっている率も非常に小さいということもあるので、その中で母集団について少し考えましょうという、これも大事だと思う。

委員・すみません、ちょっと。

委員長・はい。

委員・回収率について、まず3000通で1200通ぐらいの回答レベルである。回答した人は関心がある。だけど、さっきもそこで知らなかったという意外性もある、反省でもある。ただ、この回収率が5割を割っている調査というのは一般的に言ってどういうものか。普通は5、6割ぐらいいくのではないか。事務方はほかにもいろいろ調査を安曇野市でされているかと思うが、4割というのはやっぱりちょっと低いような気がするし、それからもう一つ博物館来館者に問うて56%というの、ちょっと数字としては細いような気がする。もうちょっとこれは高くなってもいいかなという感じがしている。

委員長・事務局はどうだろう。

那須野課長・われわれが認識しているところでは、比較的回収率としては高いんじゃないかなと思う。アンケートの種類によっては3割台とか低いものがあるので、4割ぐらいが回答しているわけであるから、まあまあアンケートとすれば回収率は良かったんじゃないかなという認識である。

委員長・私も、これは義務ではないので、アンケートの場合はもっとずっと低いものもいっぱい出てきている中では、市民の皆さんがよくこれだけ回収させてくれたなという感想をもった。どこでもそうであるけども、大量に出して、出てくる結果はごくわずか、そして先ほどの話のとおり、委員が言われたのとかかわってくるが、返答をくれている人と実は返答を全くくれないで無関心な人といろいろいる中では、決して少なくはないだろうというふうに思っている。

委員・さっきの「知らなかった」というのが非常に事実上、高い。42%の回収率の中で、この割合である。ということは、知らない人のほうが、回答をよこさなかった人はもっと知らない可能性が高いわけで、そうすると非常にまだ一部の人しかこの問題については知られていないなど。そういうふうにわれわれは認識したほうがいいのではないかということを感じた。

委員長・先ほど委員のほうからも話があったとおり、私どもの活動自体もほとんど知られていない。逆に言うと、だからこそ今日のように記者さんたちに来てもらったり、できるだけ多くのところに情報を流さないと前に行けないのではないかと思う。これもまた、今日私どもとしては提言書を出すことによって、少しでもまた意識をいろいろ持ってもらおうということになってくるだろうと思う。言われているように、私どもがやっていることがまだ理解されていないということは非常に私たちとしても恥ずかしいことであるけど、精いっぱいやっていくしかないだろうと思うので、まずアンケート結果については、そのパーセントに関してはこんなものだということでご理解いただきたい。

ほかにご質問等がございましたら、お願いいたします。

委員・関連するのだが、この会議が周知される方法というか、まだ中身が決まっていないから、こういう構想があるよという話じゃなくて、こういう委員会がつくられました、今後こういうのを検討していく、ただそういう記事だと思う。それは新聞等によってなのか。

委員長・お願いします。

那須野課長・設置については小さく載った程度だと思う。ただ、今までの8回の議論については、記者さんがほとんど工業新聞で、取りあえずは記事になったということである。

委員・ホームページなんかでは、やっているのか。

那須野課長・もちろん毎回告知はしているし、それからこの会議録も、ほんとうに皆さんがしゃべったこともきちんとその都度公表しているの、そういう現状だという。

委員・ただ、なかなか会議というのは、こういう市町村のいろいろな会議、県も含めて会議が始まったよという記事は、たくさん会議があるから、それを一個一個普通の一般の人が全部認識するというのはたぶん苦しいので、これからの課題なんじゃないかなという気が私はする。広げていくのがよい、と思った。

委員長・どうもありがとうございます。言われるとおりふと考えてみると、私の場合は松本市であるが、どういう委員会が開かれているか全く興味も示していないし、自分がやっていることもほとんど今まで言っていなかった。その中では、これは決して少なくはないのかなと思った。でも大事なのは、市民の理解がなかったら、これから先、文化施設はつくれない。その意味では私たち委員としてやっている者の立場もきちんとあるので、できたらいろんなかたちで私たち自身もまた広報していきたいと思う。このことについては、本当に人数が少ない点いろいろまた理解の仕方があるかと思うけれども、考えていき、同時に宣伝していきたいと思う。ほかにご意見がございましたら。

委員・調査の設計というか調査対象の抽出のところ、住民基本台帳から地域別・年齢区分別に人

口比に応じてと書いてあるので、そこは分かるけれども、6ページの居住地域の中で堀金と明科が極端に数字が低い。ほかの所は大体3割とか2割であるが、ここが1割にも満たない。それはやはり地域の文化性の低さというか、そのようなかたちに捉えていいのか。

委員長・すみません、事務局のほうから、もし明科……。

委員・・自分が明科なので、ちょっと気になって。

那須野課長・回答率が低いということについてでしょうか。

委員・・ええ。

那須野課長・居住地域やなんかは比率であるので。

委員・・人口比率でしているというから、そういう点では均等である。ところがその回答が、この2地区だけ。

那須野課長・居住地域別の人口比であるから別にそんなに気にされることはない。

委員・・そうでしょうか。はい。

那須野課長・全体として100になっているので、人口比に対しての、この割合は全体を100とした場合の割合であるので、人口比で低い、高いということはないので。

委員・・はい、分かりました。

委員長・よろしいでしょうか。

委員・・アンケート結果で、41ページで先ほどは触れられなかったが、そもそも「博物館を知らない」とか「興味がない」とかいう回答がある。さっきおっしゃられたように、そのへんがもっと知られてくると回答も変わってくるのかなと思った。そういう点では前回話に出たコンパクト展示で博物館の活動とかを広めていくのが大変有効なのではないかと思った。私も県の公園に勤めていて、県職が県の公園を知らなかったので、県庁のロビーでちょっと持っていってお話をし、だいぶそれが効果を発揮してくれて、その点はこの間のことがいまいかなと思っている。あと設問されたものに対して答えているだけのパーセントというよりも、最後の自由意見というものに大事なものがだいぶあったように思う。きのうの夜中に読んで読んで思ったが、そういうのは無駄だとかこんなものは要らないと思いつつながらも、やっぱり新しいものが必要なのではないかというような建設的な前向きな意見もあり、全く必要ないといったご意見もあった。私は、税金の無駄遣いは必要ないとか、いろんな意見が多く出て、それから本当にできるのかという切実な予算的な面でも、要らないかもしれないというような考えも夜中に出てきてしまって、その場合に、既存の博物館を利用するのがいいのか、既存の博物館にこだわってしまうと、改修費にこれだけかかったら割が合わないとかいろんなものが出てくる。前に西垣委員と、あと委員のほうから、今日本は廃屋がだいぶ多くなっている、そういうのを利用したらどうかという意見が出ていたが、青木村の信州昆虫資料館というのは、イベントなんかもやっているが、元宿泊施設を改修して買い取ったかなんかで使っている。今の話に合っているかどうか分からないが、そんなこともちょっと検討した。申し訳ございません。今日は私ちょっと2時過ぎに失礼するので、早く言いたいことだけを言って失礼させていただく。それからアンケートの中に、「一つのテーマにまとめてしまうと、見ている時間が長くて疲れてしまう」というような意見があった。確かにそれもそうかなと思うので、人物的なゆかりの人とか歴史とか、そんなものを扱うところ、自然を扱うものというのは皆さん希望されているので、そのくらい分かれてもいいのかなと、検討してもいいかなという感じをアンケートから受けた。その場合に、一つの例としてゆかりの人々というの、碌山が討論の中に入っていない。それは市立ではないが、その、研成ホールとか、あの空間を人に依頼するとか、例えばそういうふうにするとか、分散してもいいのかなと思った。

あと博物館に足を多く運んでいただく、博物館のことを知っていただく。さっきの46ページの答えのことを解消して皆さんに知っていただくために、次世代を育てるといふか、今の

博物館を理解していただくという気持ちをもっと高めていく。そこに学芸員の方がついて資料の研究をしたりするような、フォローアップしたりするというふうに市の構想の中には入っているけれども、そういうものを充実したりとか、今の博物館には古いイメージとか年配者向けのイメージがあるというのも出ていたので、そのへんも解消したりとか、そちらのほうにちょっと力を入れていってもいいのかなというふうに思った。

委員長・ありがとうございます。やっぱり一番大きな問題は、そもそも興味が無いというのは、実は博物館の面白さを私たちもしっかり訴えていない。それから私たちが理想としているのは従来のものではなくて、より良いものをどうやってつくっていくか、それから同時に文化をつくっていくとりでになったらいいなと説明しなければ無理である。そういう意味では、きちんとまだ説明を私たちもしていなかったと思うし、どうしても、私も大学だったら大学でもこれは当たり前だと思ってしまうところがある。博物館の人たちほど博物館があって当たり前だと思ってしまっているところがあって、そこらへんの努力は今後きちんとやって、もしくなるなら、まずは市民の皆さんの理解を得るためにも今のご意見はすごく大事だと思うので、そのことはできるだけ意識しながらやっていきたいと思う。

委員・それでここに集まっている人とかが、この博物館での回答のほうは、そもそも博物館へ行っているのだから、博物館が好きで興味があって行っていると思う。そうじゃない人のほうの回答がぐんと低かったりするので、そちらの意識を高めること、それからそういうことを知らせることと、何かのところでこういう委員会のこととかも知らせながらという努力もしていかなければいけないと思っている。

委員長・恐らく回答してくれない人たちの意識は、もっと低いはずである。私たちは回答をもらっている中で話をしているので。そういった意味では本当に今、委員が言われたことは大事な点だと思う。ほかに、どなたか、よろしいでしょうか。

## (2) 提言(素案)について

委員長・今日大事なのは、この次の提言についてである。先に皆さんの今お手元に行っているかと思うが、今日お配りしたものである。実は、これに関しては何度も何度もやりとりをして、今日は初めてであるし、皆さんにしっかり見ていただきたい。ここで論議をしていただきたいと思っている。まず、1枚のものであるというのは、コンパクトに私たちとしては求められたことに対して訴えかけたいということで、最初はちょっと長いものを作りましたが、1枚になった。その上で、この次とのかかわりがあるので申し上げておきたいと思うけれども、前回この構想案について「本来は私たちの名前が来るものであって、安曇野市と来るのはおかしい」という意見も出たが、実は私たちが依頼されているのは、この提言がどうなっているか、私たちはどういう判断をしたかということをやする。その上で、それを前提にして安曇野市として事務局の皆さんがお作りになられたのがこちらになる。

ただ、本委員会との関係で言うと、私たちが提言したり、私たちは今まで具体的に同意してきている。私たちの流れとしては、私たちがしっかり言わなければいけないこと、本委員会として求められたことに対してコンパクトに主張したいのがこの1枚だということで、まず見ていただきたいと思う。それでは事務局のほうからよろしいでしょうか。

(逸見主査より 資料2「安曇野市新市立博物館構想策定委員会からの提言」の説明)

委員長・すみません。今説明していただいたが、いろんなものを私どもは論じてきた。それも入れて一度作ったものを見たが、結構長くなってしまった。その中から一番重要だと思うものを、まずは確認したいと思う。私どもとしては、最終的に市立博物館の「新規建設」を提言したい。われわれに最初求められたのは三つのケース、3のうちからどれをとるかというのが一

番大きな質問であるけども、私たちとしては「新規建設」を提言する。これは念のために申し上げておくと、いつまでにつくれるとかそういうことではなくて、理想論として求められたものに関してやろうとすると、新規建設がいいのではないかと提言するという文である。ただし、その上のほうに、博物館で特に私たちが主張したいと思っていることを2点、博物館はこういう展示をしたいとか、ここに重点を置くということも随分話し合ったけれども、「市民とともに活動する博物館」、主役は市民である。これはもっと強調すべきではないかと思って、あえて上に挙げた。そして博物館を単純に展示の場所としないというのが、いっぱいここで出てきたので、「安曇野市の文化を守り伝える人材を育てる博物館」、博物館の意味は人材を育てるんだということを強調しておいた。

こういうことをやるためには、その下のところに、今までのようなものではもう老朽化して、むしろお金もかかってしまうし、そういう理念にかなうものがない。だから新しい博物館をつくったらどうでしょうかというのが、提言書としてここで提示したものである。皆さまのご意見を頂いて、より良いものにしていきたいと思う。なお、最初のところの上のほうにある6行は経緯の問題で、全くこれを抜きというわけにいかないとはい、しかも最初に理念として「学ぶ心が育ち、文化のかおるまちづくり」というのが文化振興計画にあるなら、これもやっていくべきだという説明のために入れた。すみませんが、皆さまのご意見、それからご質問等をお願いいたします。

委員・まず内容についてであるが、その黒点の二つはいいと思う。それでその下の説明の部分は、私たち安曇野市民が学芸員らの人材を育てていかなくてはいいか、そこにちょっと強調がいき過ぎているような文章だと思うので、最初の市民と共に活動する博物館という内容も含めて、もう少し修正できないかということ。もう一つは、笹本委員長のおっしゃることは分かるが、新規建設の部分。私もそれでいいかなと常々思っていて、常に引っ掛かるのはどうしてもお金のことが離れない。ついては、そのところを例えば理想として新規建設を提言するが、そんなような文言が入らないかどうかということである。

委員長・すみません、先に申し上げておきたいと思うが、今、委員が言われたことは、とりわけほかの部分より非常に重要な点だと思っている。ここでは、先ほど申し上げましたように私どもとしては、あるべき姿で、これを何年までにつくれとかいうことは一切書いていないのが、今、委員の言われた部分に対する私は回答だと思っている。早急につくれということもやっていないし、そのためにも上のほうにある。前々から本委員会の委員の皆さまには、人材が必要であると。建物よりも人材が必要である。つまり建物をつくらないなら、まずは人材をやって、最終的には何とかつくれる方向に持っていきましょうという意味で、理想を私どもは書いているつもりなので、あまりそのところは書かないほうがいいだろうというのは私の判断である。これがまず1点。それから、できたら前半部分に関しては少し言葉を言っていただけないだろうか。言われたとおり、「未来へと引き継いでいく学芸員などの人材を育てていかなくてはなりません……。」

委員・「なりません」と、その2行の部分で、要するに後半の人材を育てる博物館だけのことを言っているというふうにとられはしないかと。だから市民と共に活動する博物館を説明する何かいい文言を考えていただきたい。私は今この場でぱっとはいい文章を思い浮かばない。

委員長・ありがとうございます。もし皆さんのほうから委員の意見で、こんなのがいいだろうとかいうのがあったら提言していただければと思うし、もしないようなら、一応今日できるだけ審議していただいて、最終的に出ないようなら、私及び事務局のほうにお任せいただきたいと思う。はい、お願いいたします。

委員・問題は、市民と共に活動する博物館と、それからもう一つの安曇野の文化を守り伝える人材を育てる博物館ということで、その下にある二つの段落の中に「市民」「在野の研究者」「学芸員」という言葉が出ていていると思う。二つの次の2点目の守り伝える人材、これがさんが今

おっしゃったみたいに学芸員だけのよう表現になっていると。だから市民と在野の研究者、学芸員という言葉を使うなら、その関係をしっかりと理解できるように文章の中に入れ込む必要があると。要らないなら、不必要な言葉を切ってしまうということではどうか。

委員長・実は、私はどちらかという切ってしまうのではないかとこのところがありまして。

委員・・在野の研究者というのは、

委員長・それも必要な。

委員・・なかなか難しい。在野の研究者は市民なのか、市民じゃないのか。

委員長・市民でしょう。

委員・・地域の研究者とか、あるいは地域のことを研究する人々とか分かりませんが、市民もたぶんそれに属するだろうというふうに。研究者と言ってしまうと市民と関係ないみたいな認識が今のところあると思う。だけど、この博物館の構想というのはやっぱり市民も研究者なんだという、そういうところにみんなの意識が行くような活動をしていきたいと思いますというのが、恐らくこの構想であると思う。そういう気持ちが分かるような文章にすれば、研究者という言葉を使ったとしても市民と離れていくような言葉ではなくて、むしろ市民の中に定着していく研究者というふうにこの構想の委員会としては考えている、そういうふうに言えれば一番いいかなと私は思う。

委員長・ありがとうございます。先ほど言ったように、一番最初のところの2ポツ、二つのポツはここに全ての思いを込めているので、それが分かるように、それから実は文章を長くすればするほど意図が伝わらなくなる部分もあるので、ちょっとそのへんでは書かせていただきたいと思う。ほかにご意見をお願いできないでしょうか。

委員・・「私たち安曇野市民は、安曇野の文化の価値を発信し、未来へと引き継いでいく学芸員など」ではなく、「未来へと引き継いでいくために、学芸員などの人材を育てていかななくてはなりません」というふうにすると、多少。

委員長・ああ、分かる、分かる。具体的な案として今、私たち安曇野市民はという主語に対して未来へと引き継いでいくために学芸員などの人材を育てるとなると、学芸員は人材の一部になってきて、市民の主体はそういうような文化を引き継いでいく義務を持つというふうになってくると思う。

委員・・今のだと全部が学芸員にかかってくる気がする。

委員長・はい。そういう意味では非常にいい言葉になったかなと思うけど、帰られる前にどうぞ一言。

委員・・すみません、申し訳ありません。

委員長・・いい？

委員・・はい。

委員長・・どうもすみません。ありがとうございました。

委員・・すみません。申し訳ありません。失礼いたします。

(委員、退室)

委員長・ほかにご意見は、要するに、短いけれどこれは私たち全員の提言なので、ここに思いを込めて、少なくとも市長にはしっかり読んでもらいたいというのが私たちの気持ちであるので。

委員・・いいでしょうか。

委員長・はい、お願いいたします。

委員・・私もさんのように、「未来へと引き継いでいくために」じゃなくて、私は「ためにも」と入れたら、学芸員の人材を育てていかなきゃいけない、引き継いでいくためにも学芸員と、そういうふうにしたら学芸員が大事だということが分かるかなと思ったのだが。

委員長・ありがとうございます。ここでずっと皆さんが言ってくれていることは、今までどちらかという学芸員の部分が低かったのが、本市では学芸員はやっぱり大事だということもみんな考えましょう。しかし、それはみんな「未来へ引き継いでいくためにも学芸員などの」で、



学芸員は代表である。あくまでもその一例にすぎなくて、言葉がいろいろかどうか分からないが、在野の研究者や市民の皆さんが大事であるという意味になってくると思うので、ぜひその「ためにも」というふうに持っていきたいと思う。ほかに。

先ほどのとおり、私たちとしては安曇野の人々が伝えてきたさまざまな遺産を守り、安曇野の文化を育てる拠点として市立博物館の新規建設を提言すると。その博物館は、先ほどのように市民と共に活動したり、安曇野の文化を守り伝えていく人材を育てるという趣旨で、もう長いものではなくて、ここに主点を置いてしまいたいと思っているけれども、これだけではどうしても入れるべきだとか、あるいはこれは必要ないとか、もしございましたらお願いいたします。はい、お願いいたします。

委員・ちょっと意見がまとまらないかもしれないが、新市立博物館の基本方針の中に「学びの輪を広げ」という言葉があり、その中に「市民の中に学びの輪を広げる」、そして博物館の役割の四つの役割の中の4番目のところに「多くの人々がさまざまな分野に興味関心を持ち、安曇野の文化を後世に伝えていくための学びの輪を広げる」という。学びの輪を広げるということは、要するに地域住民の中にそういう文化に関心を持ち、そして学ぶ姿勢というものを醸成していくというか、そういう願いがあると思う。このポツの2番目の安曇野の文化を守り伝える人材を育てるというのは、その人材というのは学芸員を中心とするけれども、市民全体というか、そういうところの醸成というように考えたら、ちょっとこのところに学芸員などの人材を育てていかなくはなりませんという言葉の中に、学芸員などの人材を育てながら地域住民の学びの輪を広げていくようなことを加えてもいいのではないかという考えがある。

委員長・ありがとうございました。今の意見を聞いて、ポツの市民と共に活動する博物館の下に「学びの輪の中心となる博物館」という言葉を入れてしまうと、もっと明確になるのかなということも思った。そうすると、要するに「学びの輪の中心となる博物館」ということを入れることによって、博物館は単なる展示でもない。後ろのほうを含めて言うと、先ほどから繰り返して出ているように学芸員などの人材というのは、実は学芸員はあくまでも代行にすぎなくて、私は子どもたちだと思っている。それは前のほうに、市民と共に活動するとか文化を守り人材を育てる博物館、この人材は決して博物館の学芸員ではない。

委員・そうですね。

委員長・はい。であるから、そういう意味からすると、もし皆さん問題がなかったらどうでしょうか、「学びの輪の中心となる博物館」というポツを一つ入れると。

委員・いいと思う。

委員長・ありがとうございます。ほかに、そういうご意見がございましたらお願いいたします。やはり私たちの博物館は、ここの策定委員会の皆さんは単純に博物館を展示の場として考えるのではなくて、未来のためにどうするかという、それが私たちの売りであって、その丸のポツ三つは展示そのものがどうあるべきだということを言っているのではない。これは、私は誇るべきことだと思っている。そういうことを提言できるような策定委員会であったことが私の誇りであるけど、まだ何かこれが足りないよとか、こうすればもっと良くなるのではないかということがありましたらお願いいたします。

副委員長・一ついいでしょうか。

委員長・はい、お願いします。

副委員長・真ん中の段の一番下のところで「また一方」以下、統廃合の前のところで、全体の5行目ぐらい、しかし資料の分散、施設の老朽化の傷みなどが多く、こういった長期の傷みによって拠点となる施設はありませんというので、それを考えると、またこのところで改めてこういう文が必要なのかなという気がする。改めてここへ持ち出して言わなくても、これを少し含めて前のところで言うてしまうと。だから新市立博物館の新設を提言すると打ち切れれば。

せっかくそう言っておいて、また見ながら持ち出す。

委員長・ありがとうございます。実はその後ろのほうに書いておいたのは、今まで三つの案で統廃合すると。新博物館ということだけをぼんと言ったら違和感があるかなということをやったが、先ほど副委員長からお話があったとおり、前のほうで「なれる施設がありません」ということを言って、そしてその後またフォローする必要はあえてないという、皆さまの今の反応を見ているとほとんどの人が「うん」とうなずいていましたので、いかがでしょうか、この後ろのほうを切るか、あるいは。

副委員長・上に引っ掛ける。

委員長・上に引っ掛けてつなげてしまうかに持っていきたいと思う。基本的にも今のままでは無理なので、統廃合した上で新市立博物館を設置しようという方向に少し省かせていただく。ほかにご意見等がございましたら、お願いいたします。はい、お願いいたします。

委員・これを出すのは市長に向かって出すということなのか。

委員長・はい。最終的にまだ細かい点が、私どものほうは日程とか決まっていないが、渡すセレモニーをするべきだと思う。少なくとも委員会が、本来ならばこういう委員会の一番最後に皆さんでやるのが正しいはずだが、今日市長は当然用意されていないし、それから今日実は結審するかどうかも見えないところがあるので、皆さんのほうで問題がない段階で、少なくとも直接セレモニー的には委員長としてきちんとしたかたちで、いいでしょうか。

那須野課長・一応これは教育委員会にということ。

委員長・はい、分かりました。教育委員会宛てに最終的にはきちんとこれを出すのがわれわれに求められてくることなので、きちんと出していく。何かほかにごございましたら、お願いいたします。もしあれでしたら、今のようなことをもう一度見直した上で、私も含めて手を入れ直してお送りする。それでお送りして大きな問題がないようなら、小さな文字修正とかそういうもので済むぐらいの場合なら、今言った内容で提言させていただくということでご了承していただけないでしょうか。

全委員・（了承）

委員長・ありがとうございます。それでは、基本的には今のようなことを直した上で、本委員会としてはこの内容で、私たちに求められて、これを設定した教育委員会のほうにきちんとしたかたちで申し伝えたいと思う。

### （3）新市立館構想書【案】について

委員長・私たちのこの提言書と、それから市の側で基本的には教育委員会のほうで作るという安曇野市立博物館構想とがあまりにも違っていたら、われわれは一体何をやっているんだということもあるし、それからわれわれも具体的にこれに関しても論じてきたので、次に続きまして新市立博物館構想案についてご説明いただき、皆さまの意見を伺いたいと思う。それではすみません、事務局のほうからご説明をお願いします。

（那須野課長より 資料3「安曇野市新市立博物館構想（案）」前段の説明）

（逸見主査より 資料3「安曇野市新市立博物館構想（案）」後段の説明）

委員長・どうもありがとうございました。以上で説明を終わる。皆さんのほうからご質問、ご意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

委員・私は、アンケートの引用のほうについて意見がある。新しいほうの11ページのところから出ているが、まず言葉であるけれども、青い字で書いてある11ページである。「安曇野市民の7割強が」、この「安曇野市民」というのは明らかに使ってはいけない用語だと思う。アンケートの回答者の7割ということであって、安曇野市民ではないはずである。それから、

その下に説明があるけども、この構想書は一般の人が当然見るわけである。そうしたときに市民一般の約75%、それから来館者ということで、アンケートが二つ行われたということが前のページに書かれているが、そこへもってきていきなり「市民一般」「来館者」という用語が出てきても、ちょっと分かりづらいのではないかと。何かうまい方法で、二つアンケートがあったときの、例えばAとかBとかそういうふうにやったほうが、びんとくるのではないかというふうには思った。それから13ページのところであるが、さっきアンケートのところの一つで言ったが、数字の取り扱いに注意してほしいということで、最後の2行ほどのところである。「博物館の新規建設については、来館者の回答は市民一般と比較して倍になっている」と。確かに数字で言ったら、割合のパーセントで言ったら倍、半分ということになるが、最初に指摘したとおり、母集団が違うところにおいてその数値そのものを比較してしまうと、おかしくなるのではないか。だから、これはやめたほうがいいのではないかと。以上である。

委員長・どうもありがとうございます。はい。

那須野課長・おっしゃるとおり回答者の7割であるから、「安曇野市民の」という記述は全部おかしい。ここは修正したいと思う。母集団が違うという意見はごもっともだと思うが、例えば倍になっているのではなくて、やはり傾向が見られる。

委員・要するに数字がパーセントでいいのであれば、それは問題ない。

那須野課長・分かりました。修正をかける。

委員長・どうもありがとうございました。今のように、私どもとしては構想案に関して今まで論議してきたので、今のようなことでほかにご意見がございましたらお願いいたします。

副委員長・くだらないことだがいいのでしょうか。

委員長・はい、お願いいたします。

副委員長・22ページに博物館・美術館の集約という文章の、いつも私は尻尾をつかまえるのだが、最後の「また、美術館のグループは将来的にアウトソーシングも検討している」、全然関係ないことをここへ入れているような気がする。これはもうカットではないか。将来的なそういう検討はもっと先にある話で、ここで入れることではないということである。

委員長・はい、これはご意見として、これでいいと思う。ほかにはございませんでしょうか。どこからでも結構である。例えば私は40ページが気になるが、39ページ、40ページともに「学び・創造事業」と書いているが、「創造事業」が具体的に何も書いていないように思う。学びの輪を広げたり、子どもたちへの対応とか、安曇野文化も大切に伝えていくという。創造性の部分がとても足りないような気がしてならない。というのは、今回皆さんのお手元に新しく9ページの部分をちょっと大きくしたものをお出ししたが、私としては、博物館をつくるということは決して博物館づくりだけではなくて、地域を知ることによってグローバル化もできるし、地域の誇りが地域を育てるとか、それがそのまま地方創生につながるとか、観光振興という促進にも全部実はこういうものがあるということをやってもらおうとしている。一番上のほう、地域の発展のところを書いてある。そういう意味で言うと、例えばだが、これはどう言ったらいいか分からないが、今は安曇野文化というものはない。安曇野文化ではなくて、それぞれの地域のところの文化はあるけど、私の外側から見ている限りで言うと、新しく入った筑摩郡の明科の文化を融合した新たな市の文化というのはつくられていないと思う。安曇野市文化をつくるとか何とかというような創造性を、どこかで一言入れてくれないかなという私の気持ちであるのだが。博物館というのは、今までのような古いことを見ればいいのではなくて、まさに地域の発展の核になっていくのが博物館であるから、その意味では言葉として「創造事業」といっぱい入れているので、できたら何かこれらのところにそれを一言入れていただけないかなと思った次第である。皆さんはどう？ はい、お願いします。

委員・・36ページで、その表の中の総合展示の説明文でだが、これはずっと最初のほうから皆さん意見が出ていると思うけども、自然、歴史、民俗、こういったものをバランス良くというのは総花的であると。それはどこにでもあるから、そんなのはやめて、もう少し安曇野らしい、これは、というユニークさを考えてほしい。われわれもアイデアを出さなきゃいけないが、そういうふうに進んできたと思うけれども、こういったのが繰り返し繰り返し出てくるが、そこは改まらないのか。

委員長・事務局のほうから。

那須野課長・はい。ご指摘のとおりである。私個人的にもそう思ってきた部分があり、安曇野の特徴的なものはこういうものだから、いろいろと総合展示だから全部は網羅しているのだけれども、特に安曇野として発信してアピールしたいものは例えば自然のこういうものとか、それから派生する水の文化とか、そういうものがイメージできる部分がほしい。

委員・・そういうことである。

那須野課長・ちょっとそれは検討させていただきたい。

委員長・どうもありがとうございます。実は、僕は前回から見ると随分良くなったなと思って。例えば4ページから始まって、地域の写真とかいっぱいメッセージで入れてくれている。私はこれで最初に言ったのは、まだこの審議に入っていないときに言ったのが、要するに安曇野らしいというのは一体何かというのを、これは前回から見ると随分良くなってきている。つまり私たちも含めて、安曇野とは何かということを考えるような要素がいっぱい出てくるのが実は大事であって、一般的なものよりもそこが大事だと思う。

その意味で、27ページ、28ページの持っている意味は非常に大きいと思う。安曇野市らしい写真がいっぱい並んでいる。こういう構想案を将来に向けて、これを読んでもらって何ぼだろうというふうには思う。構想案こそが市民の皆さんが読んで本当に必要か何かを考えていく材料になると思うので、そうであればあるほど一般的ではなくて、少し私たちの意見をくみながら、できたら強調すべきところは強調していただきたいなど、非常に委員の大事な意見を頂いている。ほかにございますでしょうか。

委員・・ここに触れていないことをちょっと質問させてもらいたいのだが。私たちが博物館をつくるわけであるけど、博物館の中で働いたり一緒になって研究していく人たちのことをこれから大事にしていこうというふうになっているが、この博物館構想で人の数の見積もり、どのくらいの学芸員を必要とする案なのか、それからさらに市民サポーターとしてどのくらいの人たちを望んでいくのか、それは本当に実現可能なのかということだが、こちらへはどう考えているか。

委員長・事務局、お願いします。

那須野課長・はい。今の学芸員の人数の関係であるが、基本的に構想なので、そこまでうたいこめない部分があると思う。例えば学芸員の数にしても人事面が入ってくるので、人件費を果たして確保できるかとか、そういう話の整合性が出てきてしまうので、どうしても人数まではうたいこめないところである。ただ、今現在、安曇野市の学芸員が、例えば正規の学芸員、正職の学芸員が何人活躍しているかと言うと、うちの逸見が博物館に1人、あと博物館全部に非常勤の学芸員が2人いる。それから安曇野高橋節郎記念美術館に1人、(安曇野市穂高交流学習センター)みらいに1人、それだけである。であるから同じ財政規模、人口規模で非常に学芸員活動が活発な市もあるけれども、今決して学芸員体制が安曇野市は充実しているということではない。専門もあるので、安曇野の場合は中世の歴史が専門であるけれど、やはりほかの分野も扱わざるを得ないということである。例えば、貞享義民記念館とか歴史を扱っていながら学芸員がいない館が多くあるということもあるので、その人数も本当はきっちりとうたえればいいのだが、この構想の中では、まずは学芸員体制をしっかりとつくっていくという意味表示をこの中にうたいこみたいという、そういう思いである。数字を入れてしま

うと、その整合性とかお金とかいう問題が全部ついてくるので、今の段階でここにうたいこむのはちょっと難しいかな、そんなところである。

委員・事情は察するが、構想がすてきて、実現は、箱はできたけれども、そこの中で働く人が実際にはいなかったとか、そうなったらもう元も子もないので、そこらへんまでちゃんと懐具合が分かっている、人が雇える。例えば、学校は1人雇うのがすごい大変。苦労して雇っている。それだけの人件費がかかるが、そういうことを考えるとすごく心配になってくる。

那須野課長・分かりました。ご意見としては頂戴して、ちょっと判断を任せていただければと思う。ありがとうございます。

委員長・53ページのところに大きな組織が書いてありまして、私どもとしては今のこともあるので、先ほど見ました提言書の中に、人、それから学芸員という問題を入れてあるので、将来にわたって少なくとも、箱はできたけど人がいないというような、ばかなことは絶対にしないようにみんなで努力していきたいと思う。こういう状況でいるとか、本当は専門性、何々の分野だけではなくて、教育普及用の人も必要になってくるし、子どもの人も必要になってくると。ただ、いつも理想と現実との駆け引きのところがあって、最低条件だけはどうしてもクリアしたい。1回人数を書いちゃうと、それだけが独り歩きしてしまうところもあるので、そのへんはこの次の段階。これは、私どもとしてはそうあってほしいということを行ったのに対して、受けた市の側の博物館構想としてここまで書いてもらったと。人数に関してはこの次の段階で書いていただかなければいけないと思うけど、現状ではこういうことでご理解いただければと思う。

ほかにございませんでしょうか。はい、委員。

委員・さっきの53ページの「市民と共にある博物館」という、この部分である。そこに組織イメージの図があるが、市民はサポーターとしてピンクで囲まれたような役割を果たすと思うが、費用もかかるという話が再三出ているけども、のみならず新しい構想の下に安曇野市が博物館をつくるというので、もう一つぜひお願いしたいことは、市民の意見はどうやって今後くみ取られるか。サポーターではない。管理運営、それからこういう方向でやってほしいとか、そういう市民の要望をどうやってこの組織はくみ上げられるのか、それをちょっと。

委員長・事務局のほうで言っていただけでしょか。

那須野課長・組織イメージであるので、ここは非常に一般的なことを書いてある。市職員の組織である博物館と、それから市民のサポーターを線でつないでいるだけなので、ここは人と人との関係になってきているので、いい人間関係の構築ができるかどうかということになってくると思う。この表で足りるか足りないかというところは、今即答はできないが、一つ言えるのは、さっき在野という言葉がいろいろ飛び交ったけれども、明科の浅野先生が亡くなってきのお葬式があったが、実は明科の歴史を一番語れる方であった。何かわれわれが困ったときは、いつも話していたのだが、旧町村の歴史のことを引っ張ってきた在野の先生方というのがそれぞれおられて、われわれの少ない学芸員に対して、そういう方々が口頭で補ってきたという部分が多々ある。その皆さんがみんな80歳を超えて亡くなったりということで、歴史を語れる方がどんどんいなくなっている非常に厳しい現実に直面している。そんなことなので、一応その学芸員に、自前であれば市民でいいのではないかという思いが非常に強くあるところがこの中に表れている。決して学芸員だけを育てればよいというわけではなくて、市民とのつながりをどういうふうに図って、そういう人材を市民の中に育てていくかというのは、われわれにとっても非常に大きな課題となるので、この表はその線1本以上に重いつながりを持っているという認識だけは持っている。

委員長・今の委員の意見は非常に大事である。下手をすると、サポーターというのは手助けをする側面だけにはなられては困る。本当は、主人公は市民である。そこは見える化をしていただきたいという意見だと思う。これから新市立博物館がもしできる場合には、市民の意見に従っ

ていろいろ館も動いていかなければならない。同時に学芸員たちは市民もリードしていかなければならないという意味で、この書き方に関して単純なサポーターでないということについて、少しみんなで意見をまとめておきたいと思う。

委員・・もっと通常のことで言えば、今まで従来の組織の協議会というのがあって、それがそういう役目を果たしてきたが、現実の協議会の役割を見ていると、今構想を立てているような意味での市民の参加の意見を反映させるというのは、どっちかという現実には安全装置の位置づけになってきていると。それではいけない。いけないんだけど、そういうことになっているので、実質的に市民の人たちの意見を吸収すると、今、那須野課長がおっしゃったみたいにこの線はたぶんいっぱいあって、レベルもいっぱいあって、例えば一番直接は資料の所蔵者との関係、サポーターとの関係、それからまだまだこれからだということのようであるけれども市民学芸員というか研究員というか、そういう人たちとの関係というのがたぶん非常に輻輳していて、あと市民のつくっていただいたボランティアという。たぶんサポーターとボランティアはちょっと違うような気がするし、それから友の会の会員というようなこともあるし、いろいろあると思う。これは運営していかないと、たぶんかたちは見えてこないと思う。だからこの段階では、そういう複数のチャンネルを持っているということが分かるような図にしておくといいのかなと。そう思う。それから、ちょっとさっき言いそびれたのだが、学芸組織の中に、設置をみてはいけないうえ、人数は書けないにしても分野は書けるだろうと。自然分野と民俗分野と歴史分野の人はいるよというふうに、要は1人じゃないよと。変な話だが、複数人は絶対にいるということが分かるような図にはなるという気はする。

委員長・ありがとうございます。今、

委員の言われたように、実は博物館をやる場合は、私は山梨県の博物館の資料・情報委員をしているが、幾つかの委員会が実は後ろにつくられて、それがいろんなかたちで検討しながら動かしていくところがある。私は今、安曇野市の博物館協議会の委員もさせていただいているけれども、そこでは市民代表の人がものすごくきちんとした意見を言っているし、この委員会自体が私はそういう委員会の一つになっていると思う。いわゆるお客さんで来ている委員の皆さんがいる中で、ここには誰もお客さんがいなくて、みんな後ろに背負うものを背負ってきていると。そういうかたちを含めて言うと、先ほど出た、委員のほうから言っていた53ページのようなものに関しては、いろんなチャンネルをきちんと用意できるようにしたい。

それから、そのへんがどこか説明さえできれば私たちはもっと動きやすくなるだろうと思うので、これは市の側の構想であるけれども、それをぜひ入れていただく。そのことに関しては、課長のほうからそういうような方向に持っていくということを言っていたので、そのようにしていただければと思う。ほかにございますでしょうか。

委員・・この53ページの中の内容であるけど、やはり博物館・美術館もそうだが、業種とすればサービス業である。お客さんは入館者、お客さんがあって何ぼという世界の器であるから、私も就職してからずっと実はその中できて、お客さんがあってのわれわれなのだという位置づけで考えていけば、やはり市民の皆さんが大切になってくる。観光客の皆さんが大切になってくる。またそういうお客さんにリピーターで来ていただく。口コミで宣伝していただく。気持ち良く帰っていただくというかたちのイメージづくりで、そういう運営をしていければいいのではないかと思う。

委員長・ありがとうございます。お二人手が挙がっている。はい。

委員・・さっきのとちょっと関連しているが、調査結果のボランティアの活動とか事業のサポートをする活動で、どのようにやってみたいかというところで、展示・企画・立案がある活動とか、いろんな頼もしい者がいっぱいいるなどというのを私は感じた。そこはそういう人たちが活動

しやすい雰囲気というか、運営に持っていければ、逆に市民が市民を呼んでくるという感じになっていいのではないかと感じた。

委員長・ありがとうございます。

委員・・全くそのとおりで、私も同じことを申し上げる。まだこれは構想の段階なので略図ということになると思うが、44ページの図を見ていて市民中心の活動にこの図がなっているかというのを見たときに、やっぱりまだ従来の博物館の図が抜けていないと、私は率直に見て思う。市民のスペースがなさすぎると。特に具体的な図なんか見ちゃうと、これはもう完全に旧式だと思っている。つまり市民が入ってきて、まず市民はどこへ行けがいいのか。展示を見るしかない。そういうことである。それじゃやっぱり新しい博物館はできない。市民が行ったら、もちろん展示というのはいいいのだが、見る本はどこにあるのか。見る本もないと。それからいる場所もないと。市民が研究し図書を利用し発表をするという、そういう動線というのがどこにあるのだろうということ、管理のほうもあるからなかなか難しいと思うのだが。うちの歴史館は、公文書館の機能を持っているので無料空間というのが閲覧室を中心に、展示のほうは有料でお金をとって、無料シェアでいいと思っているけれども、なかなか人が入らないということで、有料空間と無料空間が動線でしっちゃかめっちゃかになっていて、料金を徴収するのに非常に不便を感じている。そういう問題も実はこれに絡まってきていて、どういう動線をつくっているか、利用者動線をどういうふうにつくっているかということ、市民中心のその施設に物理的にスペースを確保していくかということ、構想段階から、具体的な建物の設計というよりは、要するに流れ図として、そういう順番でいかないと市民が使いづらいということをやっぱりきちっとしておいたほうが私はいいいんじゃないかと。今日配っていただいた平面図案では、はっきり言って全然ないと。これだと市民中心にはなりませんと思う。

委員長・ありがとうございます。先ほど言った私たちがやらなければならなかった提言の中で、最初に「市民と共に活動する博物館」ということをうたっているわけであるから、それが最低条件である。そして先ほど付け加えた「学びの輪の中心になる博物館」という側面、夢を育てる博物館というイメージと、出てきているものとの間にちょっとやっぱり齟齬があるだろうと。私たちが目指しているのは、次の文化までを育てられる博物館をつくるのであって、旧来型の展示だけが主体に置かれるようなものではないと。ここはみんなで少し強調しておきたいと思う。その上で、もし問題がなければ実は予定の時間の問題があるので、取りあえず構想案に関しましては今言ったようなこと、これは私どもの提言書とセットになっていったときに決して齟齬になるのではない。できたら私たちは次の段階もあるので、私たちが直接かかわる、かかわらないは別として、大きく重要なのは提言の三つの要素なので、それをしていただくためにも旧来型でないやつをぜひ構想の中に少し入れ込んでいただきたい。これは切望する。はっきり言って今回博物館構想に関しては学芸員の逸見先生が随分頑張ってくれたので良くなっている。でも、もっと良くなければいけないというのが私たちの気持ちである。最終的には市民が本当に喜んで、市民の文化ができるような博物館は空間としてどうあるべきか。どういうお金をかけたならそうなるのかということが意識できるような構想案にしていただきたい。これは最終的な私どもの、部分が違うけど、ということにさせていただいて、すみません、できましたら、もし問題がなかったら、これで会議冒頭に皆さまに決定いただいたように、本委員会はこれから非公開として次の問題に入っていきたいと思う。よろしいでしょうか。

委員・・一つだけ。

委員長・はい、すみません。

委員・・提言書のその他の部分の、いわゆる市民と共に、市民と一緒につくっていくという意味合いが、ものすごく色濃くすてきなものができたというふうに思っているが、やはり「全国の人

に来てもらいたい」という文言がどこにも入っていないのがちょっと気になる。要するに、日本の中心に位置する安曇野に多くの来館者に来ていただいて、安曇野の特徴とか魅力をぜひ伝えたい。それは市民に限らず多くの人々に伝えたいという、そのロマンみたいなものがこの中に一言入ってほしいなと、私としてはすごく感じている。それだけである。

委員長・はい。今の部分だが、私は提言書を出すのは市民であって、日本全体から来てもらう前に市民の皆さんの学びの場所でありたいというのは、私は提言書の中にはあまり入れる必要はないだろうと実は思っている。であるから、今の部分の構想案の中の、先ほどお示した地域の発展・観光振興・定住促進という大きな外側の枠の中に、今、委員が言われたことはすごく大事なことであり、それはそのまま博物館をつくっていくときの大きな材料になるので、博物館構想案の中に何らかのかたちで組み込んでいただけないか。

では、すみません。大変申し訳ありませんけれども、これでこれから先は非公開とするので、傍聴人ならびに報道関係の方は、お手数ですが退席をお願いいたします。